

乳酸菌生産物質 企業動向

肌状態改善に関する機能性研究を実施 日本薬学会で発表

光英科学研究所

(株)光英科学研究所(埼玉県和光市)は、複合乳酸菌生産物質『Sixteens®』の原料・OEM供給しており、好調に推移している。

『Sixteens®』の機能性研究では、城西大学薬学部と共同で同社乳酸菌生産物質について研究を進めており、“飲む化粧品”をキーワードに美肌に関する皮膚生理学の見地から産学協同研究を実施している。今月4日から東京町田市の昭和薬科大学にて開催される日本薬学会関東支部大会では、「乳酸菌生産物質の腸内環境改善による肌状態改善作用」として城西大学徳留嘉寛氏らが論文発表を行う。さらに、海外の学術誌にも投稿する予定。

このほか、これまでの研究では東京海洋大学と中性脂肪に対する機能性研究を実施しており、マウス試験で血中トリグリセリド値の抑制ならびに血中総コレステロールの顕著な抑制傾向を確認している。また、ヒト臨床試験においても、ヒト固有の腸内ビフィズス菌が有意に増加することを確認している。

同社『Sixteens®』は、16種類35株の乳

酸菌・ビフィズス菌を独自の培養方法で発酵させて代謝させた乳酸菌生産物質で、慶応大先端研、HMT社らと共同でメタボローム解析を実施し、352種類の発酵代謝物質を特定している。

成分解析では、各種アミノ酸やグルコサミン、γリポ酸、リンゴ酸、コリンやセリンなどのリン脂質、ポリアミン類、ポリフェノール類等を検出。豆乳の培地によるものと見られるダイゼイン、グリシチンは、豆乳と比較して3倍量に増加が認められた。さらに豆乳培地には無い成分も見出されており、菌と菌の相互作用により培地と独立した機能性物質の産出が示唆されたという。ホルモン様物質や神経系物質のほか、長寿遺伝子ともいわれる「SIRT1」増加作用を備え話題になっているレスベラトロール、5αリラクターゼ、阻害作用を持つビオカニンAなどが確認されている。解析データは、医学・薬学領域の研究者からも高い評価を得ており、国内をはじめ、欧州、アメリカ、韓国、中国など海外からも注目を集めている。